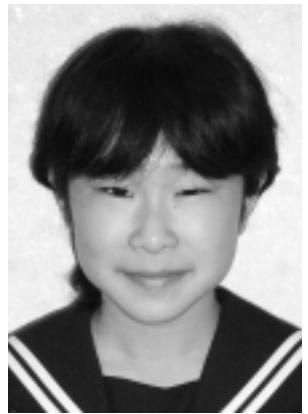


# 中学生の税作文

11月11日から17日まで「税を考える週間」で、さまざまな行事が行われました。その中の一つ、中学生の税についての作文コンクールで入賞した5作品を、2ヶ月にわたり紹介します。今月号では3作品を紹介します。これらの作品を通して、「家族で一度、税について考えてみてはいかがでしょうか?」

## 全国納税貯蓄組合連合会優秀賞



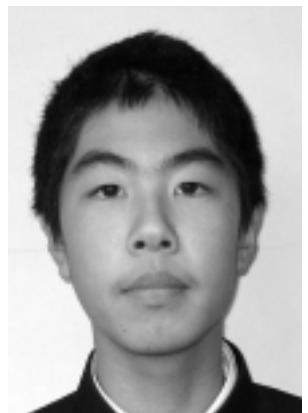
三加和中学校 1年  
横手 希美さん

## 熊本県玉名地域振興局長賞



三加和中学校 3年  
羽白みなみさん

## 玉名地区納税貯蓄組合連合会会長賞



三加和中学校 2年  
堤 貴大さん

## 税について考える

**私**が税について考えたのは、二度目である。小学校の時に一度授業で考えた事があった。

私が二度目の租税教室で考えたのがいくつかあつた。その中の三つを紹介しよう。

一つは、つい最近の事である。私の家の近くで建物火災が発生した。私は両親と一緒に現場にかけつけた。父は、近所の人と救助のために家に入っていた。母と私は、何もすることができず、様子を見守っていた。やがて消防署の人達が、到着し消火活動に入られた。消防団の人達も次々と消火活動にかわった。設備の整った車と、訓練を受けた消防署の人達のみごとな働きで、火が消された。設備の整った車や専門的な訓練を受けた消防署の人達の給料は、税金でまかなわれているという事は知っていたが、この身边に起こった火災を通して、改めて税金の大

切さと税金が有効に使われている事を感じた。安全な暮らしを守る為には、いざという時に活動できるような仕組みに税は使われるべきだと思った。

二つ目は、消費税についてである。今、買い物をするに、5%の消費税がついてくる。百円の物が百五円になる。買う方からすると、五円というのは、できればない方が良い。より安い方が良いと思ってしまう。その消費税も国の予算からすると、大切な収入源である。私達の生活を支える為に、なくてはならないお金であると考えると、安さだけを求めるわけにはいけないと見える。

三つ目は、教育費についてである。私は今、中学校に通っている。私の今通っている中学校は、校舎も体育館もすばらしい物である。校舎は、姉が通っている時に、体育館は、私が入学する時に建て変わった。とても過ごしやすく、とても気持ちがよく学習やスポーツに取り組める環境である。このような学校も税金を使って建てられている。私達が、中学校で楽しく勉強したり、過ごしていくために教育費として税金が使われている。私は、しっかりと勉強をして、しっかりそうじをし、しっかりと楽しい毎日にすることだが、税金に応えることなどと考えるようになった。

このような事から、私が租税教室で学んだ事は、税金はみんなが安心して暮らしていくために絶対必要であるということである。

税金を払うのは大人の人だから、あまり身近に感じていなかつた税金がこんなにも、私と関係があることに気付くことができた。私も大人になつたら払うことになる税金について今から関心を持つて、暮らしていきたい。

## 大事な税だから・・・

**皆**さんは、税と聞いてどう思うだろうか。大半の人は嫌なイメージがあるだろう。なぜなら、皆、日ごろからたくさんの税を払っているからだ。何のためにこんなものを…と思つかもしれないが、ちゃんととした使い道があるのだ。

私たちに身近なものが警察費。毎日パトロールをしたり、事件や事故があつたら、すぐにかけつける。これらに使うお金は、全て税で賄われている。次に消防費。火事を止めたり、何か災害があると出動する。これも税だ。他にも、ゴミ集めなどをする衛生費、私たちもよく目に見る「なごみ広報」を発行する総務費など、さまざま使い道がある。

私は毎年夏休みになると、公民館で勉強をしている。

しかし、これも税だと聞いて、税には感謝しなくてはいけないなあと思った。とは言つても、私が本当に税のありがたみに気付いたのはほんの最近のことだ。

「お父さんが事故にあつた!!」

ある日の夕方、電話をとつた母が叫んだ。父は煙草を買ひに、近くまで出かけていた。道路をはさんだ反対側にある自販機で買おうと、歩いて横断しているところを、車にはねられたのだ。このときは運転手の人が電話して救急車を呼んでくれていた。幸い、大きなケガはなかつたが、もし、父が大ケガをしていて救急車が来ていなかつたら、どうなつていたか分からない。

それなのに、このように大切に税が使われている反面、ムダに使われているものもある。私がテレビで見たのは、ある県に建つていて誰も利用者がいない、とてもなく大きな公園。見た感じでは、場所も広く、たくさんアスレチックがあつて、遊ぶのがとても楽しそうだなあと思っていた。しかし、説明を聞いてみると、階段が急だつたり、すべり台のすべり終える所がコンクリートになつていて、子どもが遊ぶには危険なのだそうだ。今日の日本は、たくさんの借金がある。だとすれば、なぜこのようにムダに税を使つてしまふのだろうか。そんなことの『民生費』に使つてほしいと思う。ただでさえ、日本は少子高齢化がすすんでいるからだ。そんなことの一人になる。その時は、嫌な顔をせずに、きちんと税を納めていきたい。日本の未来のためにも。

現在、私は十五歳。あと五年もすれば、私も納税者の一人になる。その時は、嫌な顔をせずに、きちんと税を納めていきたい。日本の未来のためにも。

## 税金の重要さと今後の課題

**買**い物をする時、必ず合計された金額に内税5%として税金が加算される。まさしくそれが、消費税であり、我々にとつても、一番身近な税ではないだろうか。

最初、消費税について深く考えたこともあまりなかったが、何に活用されるためにあるのかも、あまり知らないかった、という状態だつた。

しかし、その一番身近な消費税は、僕達が老後安心して生活できるようになると、福祉予算へと回され、それが基礎年金老人医療介護に使われているのである。それだけではない。

消費税の中には別に地方消費税が入つている。役割としては、まず地方消費税は1%だが、5%の中の四割以上が別に地方交付税として地方に納められ、それが身近なくらしのために使われているのである。

道路の整備や下水道整備にあてられる公共事業関係費。道路はひび割れや陥没だらけになり、それでも整備されることはない。そして学校・教育関係に使われる文教及び科学振興費。科学の発展も他国に劣り、学校に行ける子供達は減つてしまつ。こうなつたら将来はどうなつてしまつのか?今後の國の発展も危ぶまれる。税金が廃止されたなら、私達の生活は窮地においやられ、不便なことばかりである。税金がどんなに大切か、思い知らされるであろう。

今、日本は少子高齢化の道を進んでいる。問題は、それに伴い、納税者が減り、社会保障関係費の増大というものである。税金として納められる収入は減り、それと引き換えに國の支出は増えるという均等にならない状態になり、もしかしたら僕達が老人になつたときには、生活の保障が受けられないことになるのではないかと思う。

今、日本は、重大な決断の時を迎えている。少子高齢化の増大、それに伴う税金納入の減少、納税者の減少、また脱税など:これらの問題に、国や我々は、どのような対応をしていくのか。今後の課題ではないかと思う。今ある現状を理解し、それについて適切な対応をしていく。これらに関係あるのも我々ではないだろうか。